



災救マップって、
ご存知ですか？



大阪大学
公式マスコットキャラクター
「ワニ博士」

「災救マップ」や「たすかんねん®」など ITを活用した防災・減災の取り組みの紹介

日時

2023年9月17日(日) 17:45 ~ 18:00

場所

S2-1 都市科学部講義棟 1F ホール

スマートフォンを
ぜひご持参ください！

主催団体 一般社団法人地域情報共創センター+大阪大学

協力団体 大阪大学大学院人間科学研究科、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI)、
大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター、大阪大学オムニサイト、
大阪大学先導的学際研究機構 住民と育む未来型知的インフラ創造部門、
ITを用いた防災・見守り・観光に関する仕組みづくりの共同研究、
特定非営利活動法人日本防災士会

近年、自然災害が頻発し、大規模化しています。災害時に、何が起き、何が不安で、何が必要かを検討し備えることが地域の安全安心につながります。

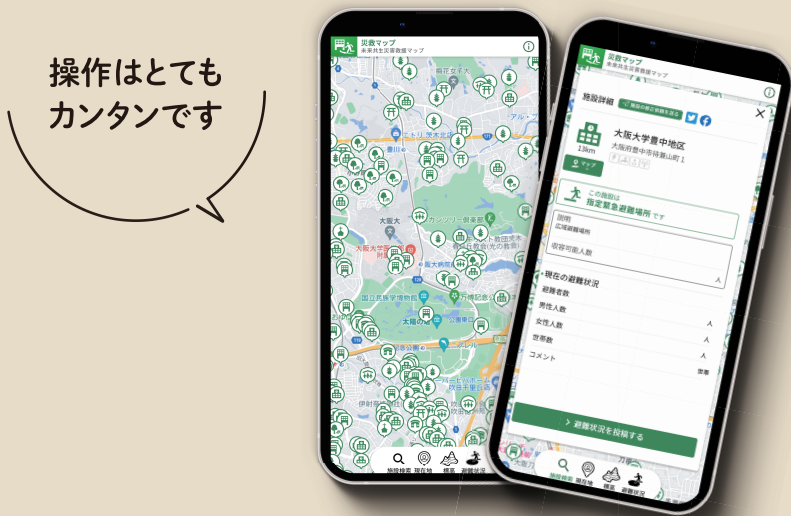
わたしたちは、安心・安全な社会の実現のために、大阪大学で2017年から行われていた共同研究『ITを用いた防災・見守り・観光に関する仕組みづくりの共同研究』、および、2018年から大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）基幹プロジェクト「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」において、「未来共生災害救援マップ」（通称「災救マップ」）、独立電源通信システム（愛称「たすかんねん®」）の開発を進めてきました。

未来共生災害救援マップ（通称「災救マップ」）

災救マップは、避難所情報を管理・参照するためのウェブ情報サービスです。防災の取り組みを通して、自治体、自治会、学校、寺社・教会等の宗教施設、NPO、防災士などによる平常時からのつながり、コミュニティ作りに寄与し、災害時には、避難行動、分散避難、救援活動のための情報プラットフォームになります。

「災救マップ」は、一般ユーザー向けの「公開系」と市区町村・組織用の「管理系」（施設情報管理、インフラ稼働・混雑状況発信、備蓄品管理など）という2つのシステムからなっています。管理系のご利用は管理権限などの設定を行うため、登録が必要ですが、公開系の閲覧はユーザー登録なしで使うことができます。

ただし、公開系から防災士や市民の方が避難状況を投稿するには、災救マップ認定投稿者として、登録が必要です。



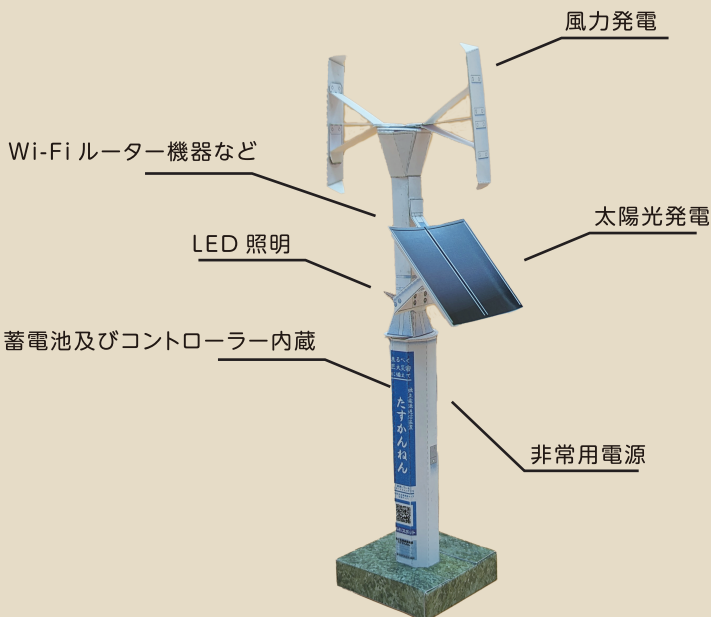
操作はとても
カンタンです

”災救マップ”
導入自治体増えてます

鹿児島県鹿屋市
鹿児島県南九州市
鹿児島県いちき串木野市
熊本県阿蘇市
鳥取県三朝町

導入に向けてデータベースを最新情報に
更新作業中の自治体も増加中！

独立電源通信システム「たすかんねん®」



「たすかんねん」は、大阪大学の「ITを用いた防災・見守り・観光に関する仕組みづくりの共同研究」で開発・改良が進められてきた、風力や太陽光発電といった再生可能エネルギーによって発電・蓄電された「独立電源」を活用し、無線通信、照明、カメラ、スマホへの給電等機能を活用できるようにしたシステムの総称です。このネットワークが街中のあらゆる所に構築されることにより、災害などによる停電時にも独自の通信網で外部との連絡ができるようになる公共ネットワーク化を目指しています。

「たすかんねん®」は一般社団法人地域情報共創センターの登録商標です。

”たすかんねん”
設置場所例



ビルの屋上



駐車場

避難場所（学校施設など）
公共施設、道の駅
寺社教会などの宗教施設
観光スポット、遠隔集落
川辺の街路灯、街中の電柱
公園施設、商店街 など

著作・PM

管理・運営

大阪大学 × 一般社団法人地域情報共創センター

E-mail : saikyū_map@riccc.or.jp

大阪大学 & 地域情報共創センターの関係者に届きます。